

# 特集：辻番所をもつ足軽屋敷 保全と活用を考える



辻番所 (スケッチ: 江竜美子)

## 辻番所をもつ足軽屋敷・磯島家

磯島家は、旧芹橋12丁目の中ほどの角地に建つ、典型的な足軽屋敷の一つです。

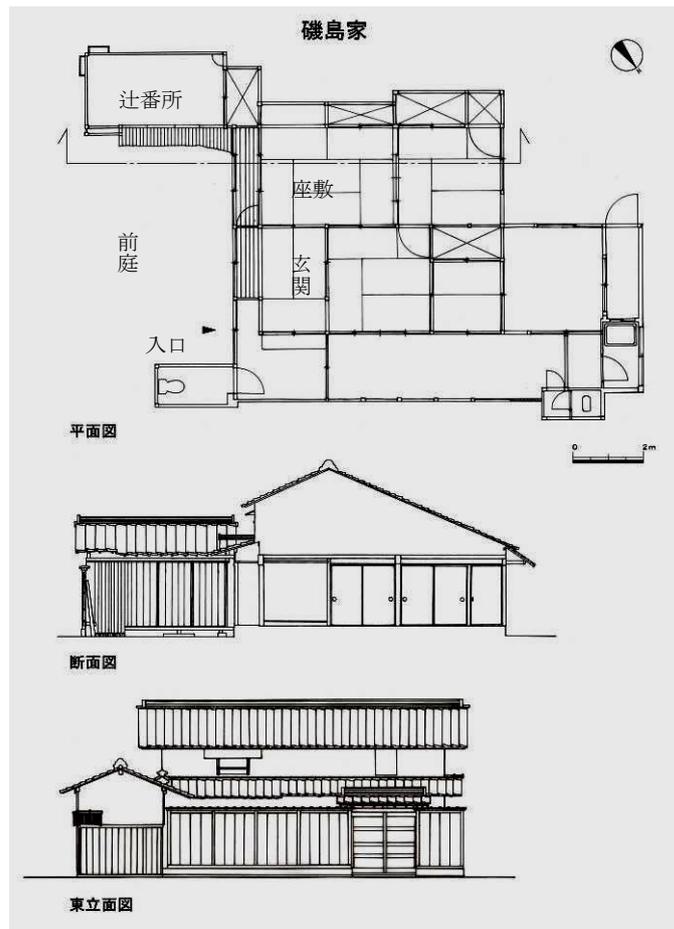
敷地面積は70坪と他の足軽屋敷に比べてやや大きく、通りに対して平面を見せる平入りの主屋が建っています。主屋の背面に突出する下屋は水屋で、後に増築されたものです。

表の入口を入ると、玄関があり座敷に直結し、奥には家人の居室が続きます。質素な造りながらも公私の空間を分けた武士の居宅です。主屋と通りの間には前栽があり、見越しの松が植えられています。座敷も簡素なつくりで棹縁(さおぶち)天井ではなく「さら天井」であり、長押(なげし)も廻されていません。居室の上部もその大半がツシとなっています。

磯島家の前庭の南東角には、見張り窓を設けた辻番所と呼ばれる付属屋が建っています。これは、内部から周囲の道を見張るための小窓を持つ構造で、江戸時代の足軽居住区での見張りの機能を現在に伝える貴重な遺構です。現状では畳4枚が敷かれ、端部は板間です。道路側の隅に小さな扉が設けられています。辻番所に辻番に来た人々の入口でしょうか？辻番所と主屋は動線的には切り離されていた可能性が考えられます。



辻番所内部

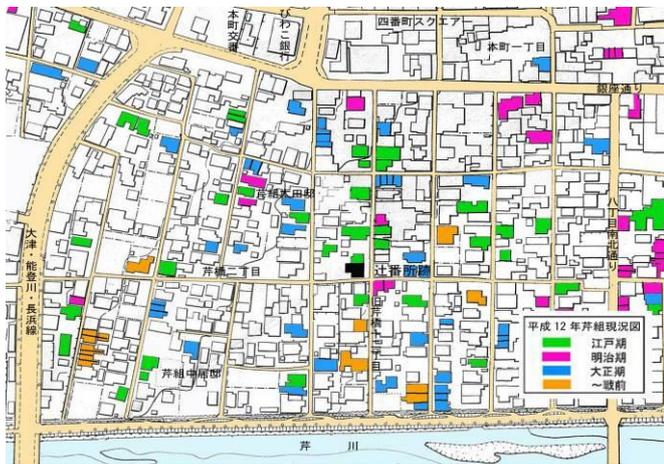


辻番所は、江戸時代に武家地の要所である辻(四つ角)に設置された番所で、諸藩の場合、藩の職制により弓鉄砲組の物頭や同心、足軽などをいくつかの組に編成し、輪番制で城下町の入口に当たる門や辻番所に詰めさせ警護したといわれます。

その由来は、諸大名を集めた総城下町である江戸で、幕府が寛永6年(1629年)武家屋敷小路付近の辻に番所を設置させ、その屋敷の家来達を当番として常時往来するものを見張らせ、盗賊化した浪人や無頼の御家人などを摘発させることにしたものです。その後、辻斬りの摘発や地域の見回りなど一種の警察機能をはたしましたが、明治改元とともにことごとく取り払われたといわれます。フェリックス・バートが撮影し



た幕末日本の写真に江戸紀州屋敷付近の武家地の辻番所が写っていますが、建物の道路側半分が開け放しの構造が見てとれます。



芦橋の伝統的建物の状況（平成12年）



芦橋のまちなみ（スケッチ：江竜美子）

## 木造伝統構法の町家 寺子屋力石 耐震改修レポート（1）

### ●「木造伝統構法 彦根研究会」を結成

平成19年9月29日(土)から10月31日までの約1ヶ月をかけて、彦根市花しょうぶ通りにある「寺子屋力石」の耐震改修工事(第1期)が行われました。

これは、大学の研究者、一般の建築家、工務店、学生と市民で結成された「木造伝統構法 彦根研究会」(座長：金沢工業大学名誉教授 鈴木有(たもつ)先生、コーディネーター：滋賀県立大学環境科学部教授 柴田いづみ先生)が、実際に伝統構法で建てられた古民家を耐震改修したものです。

一般の木造住宅の耐震改修方法では、かえって悪い影響が出るとわかってきた伝統的木造建築を、どのようなポイントに注意して、どう改修すればいいか、専門家と市民によるワークショップ形式で、みんなで学んだ貴重な1ヶ月でした。

### ●木造伝統住宅の耐震性の不安

1995年の阪神大震災では、多くの古い木造住宅が倒壊し大きな被害を出しました。改修現場を見学にこられた市民からも、「古い木造住宅が地震に弱いとは思っている。しかし、具体的にどうすればいいのか解らない。工務店に相談すれば新築を勧められるが、若い時分ならともかく中高年で建てかえ資金を用意するのは躊躇する。」という声が聞かれました。

しかし、「木造伝統構法が地震に弱い」という評価は必ずしも的確ではありません。幾度もの地震に粘り強く耐えた実績をもち、百年以上の長寿命をもつ伝統住宅から学ぶ点は多く、「木造伝統構法彦根研究会」では、木造伝統住宅の耐震性能に関する知識を集約し、実際に寺子屋力石に当てはめて耐震診断と耐震改修を実施しました。

### ●耐震性からみた町家「力石」の課題

寺子屋力石は、築250年程度と推定される「町家」です。町家は、通りに面した「間口」が狭く奥に細長い家屋で、「通りニワ」とよばれる通路が間口から奥まで通り、それに面して各部屋が1列もしくは2列に並んで配置されているなどの特徴があります。

力石には、耐震性の観点から次のような課題がありました。

1. 町家特有の細長い形状から、両隣との間には壁があるが、間口方向には壁が少ない。壁はゆれに抵抗する要素として大変重要であり、耐震性が低くなっている。
2. 床下で柱と柱をつなぐ「つなぎ材」が少なく、ゆれに対して柱の足元がずれやすい。
3. 伝統構法でも、一般民家の場合は柱と柱の間に太い梁をまわし、梁と天井との間に小さな土壁を入れてゆれに抵抗しているが、力石は天井が低く、それが入っていない。
4. 木造の建物は定期的に手入れをすることにより長寿命を発揮するが、手入れがされていないことにより、柱の下部が地盤からの水分を吸って腐り、建物を支える能力を失っている。



耐震改修ワークショップの様子